

歴史探鼎談 ～朝まで語りたい前畑遺跡～

国史跡指定記念 古代史トークセッション in 筑紫野

歴史探鼎談 ～朝まで語りたい前畑遺跡～

令和7年(2025)11月3日(月・祝) 13:30～16:30

筑紫野市生涯学習センター さんあいホール

プログラム

13:00～13:30 開場・受付

13:30～13:35 開会行事

第一部

13:40～14:10 調査報告

「前畑遺跡の土塁状遺構」

小鹿野 亮 (筑紫野市歴史博物館長 / 筑紫野市教育委員会 文化財課長)

14:10～14:50 特別講演 1

「東アジアのなかの前畑遺跡」

亀田 修一 (岡山理科大学名誉教授)

14:50～15:30 特別講演 2

「古代大宰府と前畑遺跡」

佐藤 信 (東京大学名誉教授)

15:30～15:40 (休憩)

第二部

15:40～16:20 古代史トークセッション

佐藤 信 (談長) × 亀田 修一 (副談長) × 小鹿野 亮 (談員)

古代史の佐藤信先生、考古学の亀田修一先生、そして小鹿野亮の3人による古代史スペシャル・クロストークセッション。

これまでの研究に前畑遺跡の成果を新たに加えることで、古代の大宰府から見えてくる日本古代史を深掘りします。

16:20～16:30 閉会行事

[表紙・裏表紙写真] 前畑遺跡 土塁状遺構の層状積み土 (版築)



ごあいさつ

国史跡指定記念 古代史トークセッション in 筑紫野「歴史探鼎談～朝まで語りたい前畑遺跡～」の開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

本日、特別講演をお願いし、ご快諾いただきました佐藤信先生、亀田修一先生には、ご多用のなかをご講演を賜りましたこと篤く御礼を申し上げます。

古代の大宰府は、西海道（九州）の支配と内外からの使節の送迎、海边防備を担っていましたが、その始まりは、天智天皇2年（663）の白村江の敗戦後に、防人を置き、烽火を設置し、平野を遮断する水城や小水城の防塁を築き、また、大野城や基肄城など古代山城の築城によっています。それらは、戦略的な意図を持った防衛の拠点でもあり、前畑遺跡で発見された土塁状遺構は、これらのダイナミックな古代史の歴史背景と連動する遺跡である可能性を秘めているものと考えられています。

前畑遺跡の土塁状遺構は、平成27年（2015）に、筑紫野市大字筑紫・若江の丘陵上で発見されました。土塁状遺構は、大宰府をとりまく山々の一角、大宰府から南東方向の丘陵上にあり、自然の尾根地形を上手に利用しながら、全長558m以上にわたって造られた極めて大規模な土木構造物です。このことは、その規模からみても国の関与を示すもので、水城や小水城、大野城・基肄城・阿志岐山城などの古代山城と連動し、一体的に機能したものと考えられ、大宰府の外郭線（境界）を想定するきっかけとなりました。それらの調査研究は、領域的な拡がりをもって急速に進んだ感があり、そのことを決定づけたのが前畑遺跡の発見でありました。

そのため、古代の大宰府に深く関わる重要な遺跡として、国の文化審議会（令和6年12月20日開催）から、文部科学大臣に対して答申がなされ、令和7年3月10日の官報告示によって、国指定史跡となったのです。

最後になりますが、遺跡の発掘調査にはじまり、その保存や国史跡指定に際し、地権者をはじめとする関係者の皆様方に対し深く感謝と御礼を申し上げるとともに、これを契機として、遺跡の保存・整備・活用に向けた第一歩を踏み出してまいりたいと考えております。

令和7年11月3日

筑紫野市長 平井 一三



講師プロフィール



さとう まこと

佐藤 信（東京大学名誉教授・博士（文学））

くまもと文学・歴史館長
横浜市歴史博物館長

1952 年東京都生まれ。1976 年東京大学文学部卒業、1978 年東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。1979 年奈良国立文化財研究所研究員、1985 年文化庁文化財調査官。後に、聖心女子大学文学部助教授、東京大学文学部助教授を経て、1996 年東京大学大学院人文社会系研究科教授。2018 年東京大学を定年退職して、東京大学名誉教授、人間文化研究機構理事（～2020 年）となる。2021 年からはくまもと文学・歴史館長、横浜市歴史博物館長も務めており、福岡県では大宰府史跡調査研究指導委員会や鴻臚館跡整備検討委員会の委員長などを歴任している。

専門は日本古代史。奈良文化財研究所時代には、木簡研究や古代遺跡の調査にも従事したことから、文献史料だけでなく、埋蔵文化財の調査やその保護に関する造詣が深い。著書に、『日本古代の歴史 6 列島の古代』吉川弘文館（2019 年）。『大学の日本史①古代』山川出版社（2016 年）。『古代史講義』ちくま新書（2018 年）。『世界遺産宗像・沖ノ島 みえてきた「神宿る島」の実像』吉川弘文館（2024 年）などがある。



かめだ しゅういち

亀田 修一（岡山理科大学名誉教授・博士（文学））

1953 年福岡県生まれ。1976 年九州大学文学部卒業。1980 年九州大学大学院文学研究科修士課程考古学専攻修了。同年岡山理科大学助手として就職後、講師、助教授を経て 2001 年から同大学教授となる。特任教授を経て現職。専門は考古学で、主な研究対象は、古代山城、渡来人、古代寺院、古代瓦、須恵器など、特に東アジア考古学に関する造詣が深く、大宰府史跡調査研究指導委員会の委員も務めている。編著書に、『考古資料大観 第 3 巻 弥生・古墳時代 土器Ⅲ』小学館（2003 年、編著）、『日韓古代瓦の研究』吉川弘文館（2006 年、単著）、『吉備の古代寺院』吉備人出版（2006 年、湊哲夫氏と共著）、『古墳時代研究の現状と課題（上・下）』同成社（2012 年、土生田純之氏と共編著）、『講座 考古学と関連科学』雄山閣（2022 年、白石純氏と共編著）などがある。

おがの あきら

小鹿野 亮（筑紫野市歴史博物館長・筑紫野市教育委員会文化財課長）

1970 年埼玉県生まれ。1992 年別府大学文学部史学科考古学専攻卒業。1993 年筑紫野市役所に入庁して、現在に至る。これまでに、2016 年九州大学工学部非常勤講師、2018～2020 年交通史学会常任委員。2019～2020 年に奈良県立万葉文化館共同研究「万葉集の作歌をめぐる都市交通史的研究」の研究代表者を務めている。専門は考古学だが、歴史地理学的な研究も多い。

主な論文・著作に、「入唐求道巡礼行記—山越えの軍用道・始皇帝の直道を歩く—」『古代東アジアの道路と交通』（鈴木靖民・荒井秀規編）勉誠出版（2011 年）、『万葉考古学』（上野誠編・共著）角川選書（2022 年）、「古代大宰府の空間的世界—古代交通と大宰府の内と外—」『古事記年報』第 65 号（2023 年）などがある。

